

第2学年 道徳科學習指導案

2年1組 19名
指導者 梅原麻衣子

1 主題名 友達を思って

B-(9)
友情、信頼

友だちと仲よくし、助け合うこと。

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容

児童にとって友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。日々の生活の中で、一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさについて実感を伴った理解をすることが大切である。しかし、第2学年の発達段階として、自己中心的な考え方から脱却できず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことが多い。そこで、本教材の主人公である「ぼく」の心の葛藤を通して友達の大切さを考えることで、友達と仲よく助け合っていこうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、何事にも真面目に一生懸命取り組むことができる。相手のことを思い、やさしい言葉がけができる児童がいる一方、自分の思いや考えを上手に表現できず、強い口調で伝えたり、悪気無く相手を傷付けるような言動をとってしまったりする児童の姿も見られる。1学期に行った「森のどうぶつ(友情・信頼)」の学習では、動物たちに乱暴していた主人公が、動物たちに助けられることで仲間の大切さを知り、困った時はお互いに助け合うことが大切だと気付くことができた。

1学期に学習したことを踏まえ、相手の立場を理解し、困っている友達のことを心配したり、友達の頑張りを認めたりすることのよさに気付かせたい。そして、互いに助け合い、友達と仲よくしていこうとする態度を育てたい。

(3) 教材について

(教材名「ともだちやもんな、ぼくら」)

出典:新編 新しいどうとく2 東京書籍)

本教材は、ぼくとヒデトシとマナブの仲良しの男の子三人の話である。三人は、近所のかみなりじいさんの家の木に勝手に登り、虫取りをしていた。しかし、見つかってしまい、みんなで逃げ出ましたが、ヒデトシだけが転び逃げ遅れてしまう。一度は自分たちが助かるだけを考え、ヒデトシを置いて逃げてきた二人だが、ヒデトシが自分たちにとってかけがえのない友達であることを再確認し、ヒデトシを助けに行こうと決心するという内容である。

友達の存在について、自分のこととして考えながら話し合うことで、相手の気持ちを理解し、友達と仲よく助け合うことの大切さを考えることができる教材である。

(4) 主体的に考え、伝え合い、共に伸びる授業の工夫

ヒデトシを助けるかどうかを二人が相談する場面では、多様な考えに触れ、自己の考えが深められるようにペアで話合いを行う。その際、自分の気持ちを表現することが苦手な児童には、台詞カードを渡し、自分の気持ちを伝えられるようにしたい。この場面では、(1)の場面と比較して板書をすることで、ぼくの気持ちの変化を捉えやすくする。中心発問では、一度置いてきたヒデトシをどうして助けるのかを問い合わせことで、「ええ時だけの友達とは違う」という主人公のぼくの心情や友達を思う心について考える。また、テレビのモニターを使い役割演技を行うことで、ぼくの心情を自分のこととして捉えやすくする。その際、役割演技を見ている児童がヒデトシ役になることで、友達のよさについて感じることができるようになる。

これらの活動を通して、児童一人一人が友達の大切さや互いに助け合うことの大切さについて考えられるようにしたい。

3 本時の学習

(1) ねらい

友達を思うことの大切さに気づき、友達と仲よくし、助け合っていこうとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応 ◎主発問	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 友達について考え方本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達がいてよかったですと思うことは何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに助けてくれる。 ・一緒にいて楽しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達について考えることで、本時のねらいに対する関心を高める。
		ともだちについて 考えをふかめよう	
展開	2 教材について話し合う。 (1) ヒデトシが転んだときの「ぼく」の気持ちを考える。 (2) 公園で二人が話したことを考える。 (3) 役割演技を通して友達について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒデトシが転んだ時、ぼくはどんな気持ちで走り続けたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・つかまつたら大変。 ・とにかく早く逃げないと。 ○ 公園に着いた後、二人はどんなことを話したでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・助けたいけれど、こわい。 ・転んだのが悪い。 ・ヒデトシは泣いているにちがいない。 ・友達だから助けないと。 ○ 二人はかみなりじいさんの前で、どんなことを話したでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも悪いことをしたのに、逃げてごめんなさい。 ・ヒデトシを返してください。 ・ヒデトシは、ぼくたちが助けに来てくれるのを待っていると思うから来ました。 ・ヒデトシは大切な友達です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ かみなりじいさんはどんな人か押されることで、ぼくの置かれた状況を理解できるようにする。 ○ ペアで相談することで、多様な考えに触れ、自己の考えを深めることができるようする。 ○ 自分の気持ちを表現しやすくするため、台詞カードを準備する。 ○ (1)の場面と比較して板書することで、二人の気持ちの変化を捉えやすくなる。 ○ 役割演技を行う際は、大型テレビに泣いているヒデトシの顔を映し、その両脇に児童が立つようする。 ○ 役割演技をしていない児童は、ヒデトシ役になり、二人が助けに来てくれた時の気持ちを考えることができるようする。
	3 本時の学習を振り返り、これから的生活を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ぼく」なって、今日のことを振り返ってみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が登場人物との関わりの中で、自分自身について考えられるようする。 ☆相手の立場を理解し、困っている友達のことを心配したり、助けたり、友達と仲よくする大きさを考えている。 (発言・ワークシート)
終末	4 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達についての話を聞きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と仲よく助け合って生活していこうとする意欲を高めることができるようする。